

## 更年期の障害、疾患の予防に関する研究

分担研究者

東京医科歯科大学 麻生武志

要約：女性の性成熟期に経験する妊娠・分娩・産褥などの経緯と、これらと関係する環境因子が更年期障害の重症度と関連することが平成5・6年度厚生省心身障害研究<sup>1)</sup>により明らかとなっている。今回はこの研究結果を基に対象を種々の階層・地域に広げ妊娠・分娩・産褥と更年期障害、さらに骨粗鬆症、高脂血症、高血圧症、尿失禁など更年期好発疾患との関連性を明らかにすることを目的とする。これらを多角的に調査する事により妊婦が将来発症する可能性の高い疾患を予測し、その発症予防と早期発見をする事が期待される。

本年度の研究課題は次の3項目である。

- 1.平成5・6年度調査結果の検討
- 2.骨粗鬆症、高脂血症など更年期好発疾患のrisk factorについての検討
- 3.調査票の作成および予備調査実施と解析

見出し語：妊娠、分娩、産褥、更年期障害、骨粗鬆症、高脂血症、尿失禁、アンケート調査

方法：研究の概要は以下の通りである。

1.本研究班員が所属する北海道・東北・関東・関西・四国地方の医療施設の中で、妊娠・分娩を経験した更年期外来受診患者を対象とした妊娠・分娩・産褥期に関するretrospectiveなアンケート調査を行い、さらにその患者の未治療時の検査所見から、骨粗鬆症、高脂血症、高血圧症、尿失禁および更年期障害の重症度を判定する。これらの調査対象は各施設の更年期外来初診患者のうち45～55歳で出産経験のある婦人（各施設50人以上）とするが、再来患者でも初診時のSMIの算出が可能であれば、調査対象に含めることとする。調査は医師・助産婦・保健婦・学生などによるアンケート用紙を用いた聞き取り調査とする。一部項目に関しては、母子手帳の持参を依頼し、その記載内容について転記する。

2. さらに更年期外来初診患者に対しては、適応がある場合はホルモン補充療法（HRT）を開始し、対象患者の追跡調査を行い、更年期外来における治療効果の差と分娩時の異常の有無との関連を検討する。

3.以上の結果の主成分分析を行うことにより、妊娠・分娩・産褥と更年期好発疾患およびそれらに対する治療への反応性の比較を行う。

本年度は以下のごとく検討・調査を行った。

- 1.平成5・6年度調査結果の検討
- 2.骨粗鬆症、高脂血症など更年期好発疾患のrisk factorについての検討
- 3.調査票の作成および予備調査実施と解析

結果：平成5・6年度調査では、簡略更年期指数（SMI）<sup>2,3)</sup>と独自に作成した妊娠・分娩・産褥についての調査票を用いた。SMIは更年期障害の重症度を点数化して客観的に表すもので、調査票は1.身体的既往および現象、2.社会環境、3.嗜好・文化、4.妊娠・分娩・育児、5.母子手帳、からなる。高いSMIを示した更年期障害群と対照群とで比較すると潰瘍性疾患、乳腺疾患、婦人科手術の既往、月経が規則的であった、月経障害が強かった、離婚歴がある、飲酒しなかった、喫煙した、分娩時の医療者に対する印象が悪かった、授乳期間が短い、等の項目が更年期障害群で有意に高頻度であった。さらにこれらの項目を中心に、1.妊娠・分娩時の異常、2.内分泌因子、3.性格・心理因子、4.社会的環境因子の4つの因子を作成して主成分分析を行った結果、1.妊娠・分娩時の異常、2.内分泌因子、3.性格・心理因子の3因子が、更年期障害の発症に影響を及ぼすことが示された。一方4.社会的環境因子の関連性は認められなかった。

今回の調査では、更年期障害に加え、骨粗鬆症、高脂血症、高血圧症、尿失禁等更年期好発疾患についても広く検討し、また調査地域を全国に拡げるため、以下のように調査票の改編を行った。

まず、外来検査結果として、骨量検査 (bone mineral density (BMD)・% age matched・% young adult)、脂質検査 (総コレステロール、中性脂肪、高比重リポ蛋白)、血圧測定値等を追加し、SMIを尿失禁・性交障害についても考慮した modified SMI<sup>4)</sup>とした。さらに、遺伝性素因、嗜好、食生活、スポーツの有無、体重の変化、乳製品の摂取等、骨粗鬆症や高脂血症に関連するといわれている項目に関してアンケートの追加を行った。また、妊娠中や分娩後の尿失禁の有無についての質問も、更年期以後の尿失禁との関連を検討するため、アンケートに加えた。また前年度調査で更年期障害との関連が示されている内分泌因子および心理的因子についての検討を深めるため、つわりの有無、分娩時の記憶などの質問項目を追加した。

以上のように改編した調査票を用いて予備調査を行った。予備調査の解析結果は以下の通りである。

各年代での月経周期、月経障害、既往歴、家族歴等の医学的因子に関して2群の間で有意な差が認められたものは両親の骨粗鬆症の既往であった。SMIの高い群すなわち更年期障害群では両親に骨粗鬆症の既往はなく、対照群で60%に認められた。

有意差は見られなかったが両群間の違いを示唆する傾向として次のようなものが認められた。

まず、塩辛いものを好む者が、更年期障害群に多い傾向があった。また、50代でスポーツをしている者は、対照群に多く認められた。

本研究の中心である、妊娠・分娩・産褥に関する設問のうち授乳期間に前回同様有意差が認められ、更年期障害群では有意に授乳期間が短かった。また、更年期障害群で第2子分娩時に会陰切開を行った者が多く、今回新たに取り入れたつわりの項目では、更年期障害群でつわりの重かった者が多かった。

多人数を対象としたアンケート調査実施の feasibility を検討するために回答に要した時間、アンケートの書きやすさ、アンケートに対する興味についても調査した。所要時間は平均14.4分で、アンケートが書きにくいとした者は2名のみであった。アンケートに興味をもてた者は55.6%であった。

考察：平成5・6年度厚生省心身障害研究で、女性の性成熟期に経験する妊娠・分娩・産褥などの経緯と、これらと関係する環境因子が更年期障害の重症度と関連することが明らかとなっている。本年度は対象を本研究班員が属する北海道、東北、関東、関西、四国に拡げ、更年期障害のみでなく更年期好発疾患にも検

討を加えることとした。この目的のため、調査票に骨量検査や脂質検査、尿失禁・性交障害の状態についての項目も加えた。骨量と運動との関連<sup>5)</sup>、骨量と授乳との関連<sup>6)</sup>等についてすでに報告されているが、これらの疾患と妊娠・分娩・産褥との関連についても興味深い結果が得られるものと思われる。今回行った予備調査では、前回調査と同様の傾向が一部で示され、改編した調査内容と妊娠・分娩・産褥の経緯との新たな関連が示されている。また、この予備調査では、アンケートの feasibility についても検討したが所要時間も14分で、回答が困難であった者も少数であり、実施するに妥当な物であると判断された。ただし、興味を持ってた者は半数であり、アンケート実施の際常に担当者そばにいて質問に答えられるような体制が必要と思われた。また、調査の正確性を期するために調査方法に関してのマニュアルが必要と思われ、これを作成した。

次年度はまず、この改編した調査票を用い、多数例を対象とした調査を行い、骨粗鬆症、高脂血症、高血圧症、尿失禁および更年期障害の重症度を判定する。またこれら対象患者の追跡調査を行い、更年期外来における治療効果の差と、妊娠・分娩・産褥の経緯との関連を検討する。以上の結果の解析を行うことにより、妊産褥婦が将来発症する可能性の高い疾患を予測し、その発症予防と早期発見に役立つことが望まれる。

文献：

- 1) 久保田俊郎他；妊娠・分娩と更年期障害の関連性に関する研究. 日本産科婦人科学会雑誌 48: 1-8, 1996
- 2) 小山嵩夫；更年期・閉経外来. 日本医師会雑誌 109: 259-264, 1993
- 3) 小山嵩夫、麻生武志；更年期婦人における漢方治療；簡略化した更年期指数による評価. 産婦人科漢方治療のあゆみ 9: 30-34, 1992
- 4) 野末悦子；更年期障害 防ぎ方・治し方. 家の光協会
- 5) Nilsson BE et al；Bone density in athletes. Clin. Orthop. 77: 179-182, 1971
- 6) kalkwarf HJ, specker BL；Bone mineral loss during lactation and recovery after weaning. Obstet Gynecol 86:26-32, 1995



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:女性の性成熟期に経験する妊娠・分娩・産褥などの経緯と、これらと関係する環境因子が更年期障害の重症度と関連することが平成5・6年度厚生省心身障害研究1)により明らかとなっている。今回はこの研究結果を基に対象を種々の階層・地域に広げ妊娠・分娩・産褥と更年期障害、さらに骨粗鬆症、高脂血症、高血圧症、尿失禁など更年期好発疾患との関連性を明らかにすることを目的とする。これらを多角的に調査する事により妊婦が将来発症する可能性の高い疾患を予測し、その発症予防と早期発見をする事が期待される。

本年度の研究課題は次の3項目である。

- 1.平成5・6年度調査結果の検討
- 2.骨粗鬆症、高脂血症など更年期好発疾患のrisk factorについての検討
- 3.調査票の作成および予備調査実施と解析